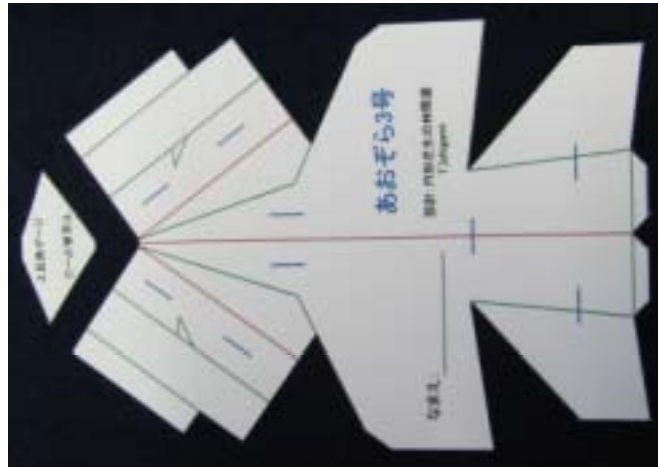


「あおぞら3号」の作り方（詳細）

1. 用紙を黒実線で切り出します。写真の状態の本体とゲージが出来ます。
注意：この時、主翼前方の線は一番中の山折線（緑）部分まで切り込まれます。



切り出した部品

2. すべての折り線（赤、緑線）を定規と使えなくなったボールペン、或いは先のとがったもので、正確に線引きをして、折り易くして置きます。
3. 先ず中央の谷折り線（赤）を約90度ぐらい谷折りします。
左右尾翼の山折線（緑）も約90度山折して、（写真の状態）もう一度、広げます。
これで折りぐせが付いて、調整し易くなります。
尾翼2ヶ所、中心線1ヶ所のホッチキスを打ちます。
その際に写真の様にホッチキス器のすきまが、線をまたぐように注意して打ちます。



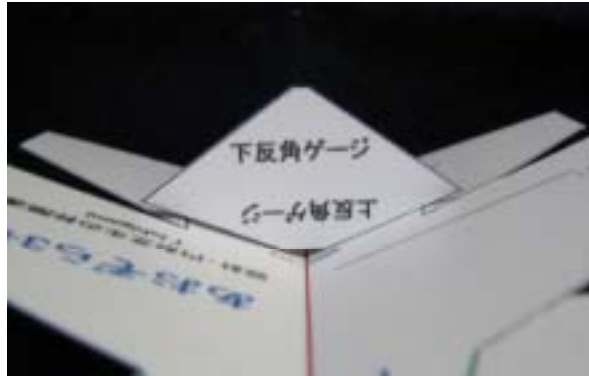
折りぐせを付けた状態



ホッチキスの位置の説明写真

4. ホッチキス器のリムーバー（針はずし）の部分で、ホッチキスの針を平らにします。
（フラットホッチキス器を使用するとこの必要は有りません）

- 5 上反角ゲージを中心線のホッチキスを打った部分にあて、上反角が正しくなる様にホッチキスの針を曲げて調整します。折りぐせを付けて有るので、この状態でも先端から後部まで、上反角は正しくなる筈ですが、念のためゲージで先端から後部まで上反角が正しい事確かめ、狂っているところは、折りを加減して合わせます。



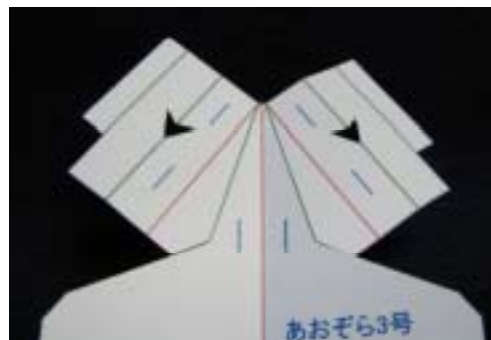
上反角を合わせた状態

- 6 左右の尾翼は、下半角ゲージに合わせて、同様にホッチキスの針を曲げて合わせます。主翼と同じ様に、尾翼全体が同じ角度になる様に折りを加減して合わせます。



下半角ゲージ合わせの状態

- 7 先端の部分、外から2本目の山折線を平らに折ります、この状態でフック部分（三角）を切ります。左右とも切って下さい。切ったら平らに開きます。



フック部分の切り取り完了

- 8 左右どちらかの一番中の山折線を平らに折ります、その状態で主翼前端のホッチキスを打ちます。裏返して谷折線で平らに広げて下さい。



主翼のホッチキスを止める

- 9 もう一方の翼も同様な方法で主翼前端のホッチキスを打ちます。
10 今、打ったホッチキスの針を平らにつぶして下さい。
11 広げてある先端部分を外側の山折り線から、折って巻き込みます（左右とも）
12 中心で合わせて指でしっかりつまみます。前から見て正しい Y 字形になる様になります。その状態で、ホッチキス 2ヶ所中の 1ヶ所を止めます。



傾いた状態 駄目

傾いた状態 駄目

正しい状態 OK

- 13 残りの 1ヶ所もホッチキスで止めます。
14 ゲージを使って、もう一度正しく調整して下さい。
15 スポンジ付きの「すきまテープ」(標準的に 15mm幅)を 20mmの長さに切り、更に半分の幅に切った物(20mm X 約 7mm) 写真の様に先端に貼り付けます。



危険防止のスポンジ



スポンジを貼り付けた状態

16 これ完成ですが、

正面から見て写真の様に全体が正しいY字形になっていますか 確認してください
左右の主翼、尾翼が変形していませんか？ 必要に応じて直してください。
ゲージは調整の時も使いますから捨てないで保管しておきましょう。



完成品を真正面から見た状態

正しい調整の方法

- 1 胴体のフック部分の後を持って、水平に前方に軽く投げてみます。その時にボールを投げるようにスナップを効かせてはいけません。水平に腕を突き出し、スナップを掛けずにパッと指を広げるように離します。
- 2 飛び方を良く観察してください。スーと直線で8 Mから10 M飛ぶならOKです。
- 3 急に下がって、2 ~ 3 Mしかとばない場合は、尾翼後端の2ヶ所の舌部分を、ほんの僅か上に上げて、もう一度テストします。上げすぎると4の状態になりますから、調整は本当に少しずつします。最も長い距離、飛ぶ様に調節してください。
- 4 3と反対で、手を離れた時に、スーと上に上がって急に下がる場合があります。この場合は3とは逆に尾翼の舌の部分（エレベーターと言う）を僅かに下げて下さい。下げすぎると、3の状態になります、同様に細かに調整して、8 M以上飛ぶ様に調整します。
- 5 飛ばした時に右か左どちらかに傾いて、長い距離、飛ばない場合があります。機体を作ったとき確認したように、飛行機を真正面から見てみましょう、どちらかの主翼、尾翼が左右対称（同じ状態）になっていない筈です、対称（同じ状態）になる様に直してテストしてみましょう。
- 6 満足できる状態になったら、機体を拾うときに、必ず先端を持つようにします。主翼や尾翼を持つと、せっかく調整した状態がくずれます。変形しやすい紙で作られていることを忘れないで下さい。

上手な飛ばしかた

- 1 広い場所（校庭、広場、芝生）などで、飛ばしてみましよう。
- 2 家庭にある輪ゴム3本を、「鎖つなぎ」でつなぎます、輪ゴムの一端を中指に通します人差し指の外側を通して、反対側の一端を飛行機のフックに掛けます。
- 3 フックの後ろ部分で機体を捕まえます、十分にゴムを伸ばし、ゴムを掛けた手を高く上げ、持っている機体を体の外側に倒します。その状態で45度から60度程度の角度で機体を放します。
- 4 上手に調製してあれば、機体は30～40Mの高さに上がりユックリ飛行するはずでず。
- 5 放したとたんに大きく宙返りをする場合があります。その場合はエレベーターを少し下げます。
- 6 逆にいきなり地面に激突する場合があります。その時は、右手左手を逆にして飛ばして見てください。それでも地面に激突する場合は、エレベーターを僅かに上げてみてください。
- 7 私たちのテストでは、良く調製されていれば、30秒から40秒の飛行をしました。
- 8 皆さんも挑戦してみてください。

<<大切な注意>>

プロ野球のピッチャーの豪速球は約150Km、新幹線の速度が230Km程度
この紙飛行機をゴムで飛ばすと、手を離れた直後は200Kmほどの速度になります
勿論、すぐに速度は落ちますが、手を離れたとたんに友達の顔に当たる様な事があると
大変危険です。ゴムで飛ばすときは、5M以上人から離れて飛ばしてください。

<<大切な注意終わり>>